



DBK だより

発展途上国援助・ドンボスコ基金

2015年1月1日 第14号
発行人:マリオ山野内倫昭

恩人、友人の皆様



明けましておめでとうございます。新しい年に、喜びと平和が皆様とご家族の上に豊かにありますようお祈り申し上げます。世界各地の貧しい子どもたちの教育のためご支援くださる皆様の温かいお心は、暗く悲しいニュースも多くなか、具体的な形でこの世界に希望を生みだしています。心より感謝申し上げます。

十月三十一日、六年間、サレジオ会日本管区長としてDBKの代表を務めたチプリアニ・アルド神父が帰天しました。サレジオ会フェルナンデス総長から私が新管区長に任命され、DBKの代表も引き継ぐことになりました。

私は八歳の時に両親と四人の弟たちと大分県から地球の反対側の一番南にあるアルゼンチンへ移民しました。サンホアン県の田舎の町の小学校でまた一年生に戻り、スペイン語とアルゼンチンの習慣を学びました。周囲数百キロ

の範囲には日本人がいませんでしたので、スペイン語だけの環境で育ちました。十四歳で家族を離れ、サレジオ会の小神学校に入り、二十九歳で神父として叙階されました。

叙階後、若い神学生たちと共に暮らし、週末は近くの貧しい団地で子どもたちと過ごし、多くの家庭を訪れながら、貧しい家族には子どもが多いんだと驚きました。貧しさのために中学校も卒業できない青少年が増えていることも分かりました。神学生たちにとって、そのような子どもたちの所にいき、サッカーをして遊び、おやつを頂き、学校の宿題を一緒にし、日曜日は団地の県立学校でミサに必ず教会の要理を教えたりすることとは、とても貴重な養成だと思えます。若い司祭としても、人々や青少年と出会えたことは、大事な生涯養成でした。具体的に社会の中で、恵まれない青少年やその家族と友達になれたことは忘れがたい喜びです。

教皇フランシスコは「出向いて行きなさい」、あるいは「羊の匂いのする牧者になりなさい」と何度も呼びかけ、教皇自身の姿を見ると、それを驚くほど実践しています。教皇はバチカンのサンタ・マルタという宿舎で暮らしながら、

毎朝七時に六十人位の方とミサを捧げ、朝食に行く前に参加した司祭や信徒の方々、一人ひとりに挨拶をします。また二〇一三年三月に就任して以来、本当の良い牧者として教会に出来ない人々の所へ足を運び、病气や人生の重荷に苦しむ人々のため、慈しみの神の姿を豊かに表しているように強く感じます。

クリスマスに私たちの間にお生まれになったイエスは、神の御姿を現しました。イスラエルの社会で苦しむ病人、貧しい人、寄留者のためイエスは良き牧者、医者、友人となりました。

私も神父として三十年を迎えます。どうか皆様、私が良い神父として働き、サレジオ会を創立した聖ヨハネ・ボスコのように、特にこの世で最も助けを必要とする人たちの牧者、憐みの神の道具になれるように祈り、励まし、支えてください。皆様の助けなしでは私は何もできません。このDBKの活動は、まちがいなく神様が望んでおられる夢です。これから私が新管区長として皆さまと共にこの夢を実現できるようにお祈りください。宜しくお願ひ致します。

二〇一五年 元旦
代表 マリオ山野内倫昭みちのち神父

アルゼンチン北管区プロジェクト 「私は人々のために役にた きたい」(福者セフェリーノ・ナムンクラ)

前管区長・DBK代表チブリアニ神父の通夜・葬儀の際に頂きました香典を、DBKを通して、アルゼンチンの職業訓練センターの教育プロジェクト支援のため送金しました。今年の春、ローマで開催されたサレジオ会総会に参加したチブリアニ神父と山野内神父がアルゼンチン北管区長より要請を受け、支援を約束したものです。ここに報告します。

二〇一三年に活動を始め、一期生四十人、青年と大人(若い母親)がコンピューターと縫製のコースを卒業した。アルゼンチンの昨年のインフレ率は三十%、二〇一三



福者セフェリーノ・ナムンクラ(コルドバのサレジオ職業訓練センター保護者)
「人々の役に立ちたい」

年度は労働省からの補助金がなかった。多くの青年、大人は無職かアルバイト。中学中途退学者も多く、若者は職に就く準備が足りない。麻薬密売、売春、未成年労働にたずさわる若者に職業訓練を施し、危険な状況を脱し、自立で



縫製コース—
ミシンを使って服の修繕や新しいドレスを作る訓練



料理教室。パン、お菓子、パスタ類、伝統料理などを作る(男女)

きるように助けるのがドン・ボスコの使命である。二〇一四〜二〇一五年には二つの新しいコース、料理とグラフィック・デザインもスタート、現在二十八人の生徒が受講している。卒業した生徒たちに、労働省から修了証と免許が交付されるよう、現在、手続きを進めている。

*福者セフェリーノ・ナムンクラ
パタゴニアの先住民族族長の息子。
サレジオ会に志願、勉強途中、病に
倒れ、十九歳で帰天。二〇〇七年、
ベネディクト十六世により列福。

西アフリカ 子ども・若者のために働く若 いサレジオ会員の養成支援

サレジオ会英語圏西アフリカ管区(ガーナ、リベリア、シエラレオネ、ナイジェリア)管区長より、教育活動に携わる会員養成支援のお願いが届きました。サレジオ会は教会、学校、ユースセンターの活動を通して、貧困、政情不安の影響に苦しむ現地の子ども・若者たちに学ぶ機会、遊ぶ場を提供し、共に歩み、希望の灯をともしたいです。

「私たちの管区では現在、一〇二名の会員が初期養成を受けていま

す。まもなく新年度が始まります。福音書のあきらめずに願い続けたやもめのように、私たちも、今一度皆様に、敬意を込めつつお願いをするしたいです！ 私たちは召命に恵まれています。同時に、まだ若い宣教地の管区として、財政的負担の重さを感じています！ 頂ける支援の額はいくらでもかまいません。皆様のお心は、私たち西アフリカのサレジオ会員にとって大きな喜びの源になるでしょう。皆様の寛大なお心に感謝しつつ。ドン・ボスコのうちに。

ホルヘ・クリサフリ神父



**DBKを通してボリビアを
支援してくださいさる皆様へ**

二〇一四年度も皆様の継続的なご支援のおかげで、小さき兄弟に小さな愛の手を差し伸べることができました。心から感謝致します。二〇一五年は私にとって、ボリビア宣教司牧三十五周年の年になります。この長年にわたる宣教司牧活動も、皆様の物心両面でのご支援をいただき、たとえ小さな活動でも、神様、マリア様に喜ばれたのではと思ひ、感謝しています。

数年前から社会主義国家になったボリビアは、経済的にも大きな



マリオ山内神父、ヨハネ・ボスコ倉橋輝信神父、故アルド・チブリア二神父 2014年2月撮影

変化はなく、街のいたるところで物乞いをする老若男女の姿が見受けられます。多くの市民は月給二〇〇ドル(約二万円)以下の生活です。そのため、勤務時間外、残業、副業で一日十五時間働く人は美に多くいます。

アルド・チブリア二神父様が管区長在任中、いつもDBKの巻頭言を書いてくださり、海外で宣教する私たちを支えてくださったことを心から感謝します。ご冥福を祈りつつ。

二〇一四年十二月二十三日から二〇一五年二月二十五日まで一時帰国致します。



日本の皆さまのご支援のもと、毎日おいしい昼食がいただけます。幼児・保育園食堂(サンタクルス市南部プラン・トレスミル地区) 日本からの学生ボランティア、中村さんと共に

連絡先は左記のとおりです。

携帯電話：090-7716-4111

FAX：03-3353-7190

〒150-0011 東京都新宿区若葉

1-22-12 サレジオ管区長館

倉橋輝信神父

**ボリビアの養護施設より
新たな支援要請！**

皆さん、こんにちは。私は南米・ボリビアで宣教活動をしている、イエスのカリタス会のシスターです。ボリビアは『内陸国』、いわゆる海のない国で、ブラジル、ペルー、パラグアイ、チリ、アルゼンチンの五つの国に囲まれています。主な産業は農業で、広大な土地に大豆・麦・サトウキビ・米を生産し、また鉱物資源を含む天然資源が豊富な国として知られています。しかし非常に貧しく、資源を国の財源として利用する技術とお金がなく『南米の宝の持ち腐れナンバーワンの国』とも言われています。また今雨季ですが、雨が降る時は半端ではない降水量になることもあり、舗装されていない道は大きな池の様になり、車も用心しながら進まなければなりません。しか

し雨が上がると、緑は青々とし、庭の花も太陽の光を燦燦と浴びて、南国ならではの美しい色に咲き乱れます。

さて、私たちはサンタクルス州にある乳幼児施設、オガール・ファティマで、〇歳から六歳までの七十名の子どもたちと共に過ごしています。この施設は、教区司教から依頼され本会が引き受けてから、二〇一五年で二十五年になります。その間多くの子どもたちが様々な理由のため入所してきました(置き去り、家庭内暴力、親のアルコール・麻薬中毒、親が服役中など)、今もそれが絶えることはありません。ほとんどの子どもは、六歳を過ぎるとお隣のサレジオ会の施設、または他の修道会が運営する施設へ移っていきます。私たちの施設の周辺には四つの児童養護施設(六歳から十七歳くらいまでの子ども)がありますが、どの施設も一杯で、溢れかえっています。

ボリビアの行政は、子ども一人当たり一日十ボリビアーノ(日本円にして二〇円前後)を食費として定期援助するだけで、衣類、日用品の費用はおろか、病気になったときの医療費、交通費もないのです。先日、『家族のいない子どもたちは、施設の中で国からも見放



11ヶ月女の子食事



園の前に並ぶ子供達

されている。』という見出しで、私たちの施設の子どもたちのことが新聞に載りました。国は子どもたちのためにわずかな援助しかしていないのです。私たちはかなり厳



お揃いのTシャツで!

しい状況に立たされていきますが、この記事が出た後、古着、オムツ、おやつなどを持って来て下さる方が増えたように思われます。こんな私たちを、子どもたちはいつも澄み切った瞳と満面の笑顔で支え、励ましてくれているかのようです。今私たちが頭を悩ませているのは、国が、公務員に支払う給料も滞っていないながら、毎年、最低賃金を引き上げ、各施設・会社に、年に二回のボーナスを支払うように命じていることです。これまで、特定の有志の方々から給料のための援助を受けてきましたが、毎年最低賃金上がり、更にボーナスを支払うことを要求され、また職員

が有休を取る際、代わりに雇う人に給料を支払うお金も必要なため、援助が追い付かなくなっています。「職員に給料が払えなくなる」「子どもたちを見放さなければいけない」状況なのです。

この子どもたち一人ひとりが、家庭環境のために抱える厳しい現状を乗り越え、これからの人生の中で、神様から頂いている沢山の宝、タレントを発揮しながら成長し、社会で生きて行けるようになるためにも、ここオガール・ファティマの運営をこれからも維持していかなければと思っています。今私たちは、共に働く職員に支払う給料を必要としています。子どもたちの未来に繋がるこのミッションのために、皆様の温かい援助を頂けたらと切に願っております。

この二十五年の間、多くのシスター、協力者の方々が、神さまへの信頼とみ摂理へのゆるぎない信仰をもって乗り越えてこられたことを感謝し、その働きを引き継ぎながら、これからも子どもたちの笑顔に囲まれ、職員と共に『今、できること』を行っていきたいと思います。

イエスのカリタス修道女会
オガール・ファティマ施設長
シスターベネディクタ立石

DBK だより 第14号

2015年1月1日

発行人:マリオ山野内倫昭

発行所:サレジオ管区本部

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12

Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190

dbk-gia@donbosco.jp

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号

00100-4-560725

加入者名

発展途上国援助・ドンボスコ基金

